

Point 1 近づけさせない

隠れ場所をなくす

家や田畑近くのヤブは、野生動物にとって格好の隠れ場所や田畑への進入路になっています。木を切ったり草刈りしたりして、見通しの良い場所に変えていきましよう。



追い払う

サルが出没している地域では、「効果のある追い払い」ができていないことが多いです。効果のない追い払いの典型は次のとおりです。

① 農作物を食べられたときだけ追い払う（野菜クズ等のときは追い払う（なげく））



② 追い払う人が限られている（非農家の人は無関心等）
③ 自分の農地だけを追い払う
①～③のような追い払いはサルから見れば一人は怖くない、少し隠れていればまたお腹いっぱい食べられる」ということを学習させ、人慣れを進めてしまいます。サルを見かけたら農作物の生育期や収穫期だけでなく、複数人で年中を通して追い払い、「人間は怖い、危険だ」と学習させることが大切です。

Point 2 エサ場をなくす

人が被害と思わない「エサ」がある

農作物はもちろんのこと、身の回りの思わぬものが野生動物を引き寄せるエサとなります。稲刈り後の落穂やヒコバエ、野菜の収穫残渣、収穫されないままの放任果樹など、人にとっては「食べないもの」も野生動物にとっては立派な「エサ」となります。これらは無意識の「餌付け」になっており、獣害の温床となっています。

野菜クズや収穫残渣も複数の家庭菜園が同じことをすれば、集落全体でかなりのエサ資源になります。稲刈り後は速やかに鋤き込みを行なう、野菜クズや収穫残渣は埋設か可燃ごみとして処分し、野生動物にここがエサ場だと学習させないように、田畑や家の周りの環境を改善しましょう。



里山の現状

Point 3 囲いで守る

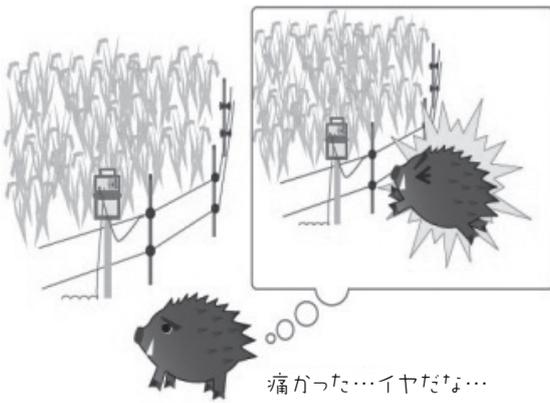
家庭菜園や田畑を守るのに欠かせないのが柵です。柵には、ネット柵、電気柵、金網柵等いくつかの種類があります。それぞれの特徴を把握し、獣種や現場に合わせた物を設置しましょう。

電気柵

- 安価で設置が容易
- 防除効果が高い

・漏電防止のための草刈、電圧チェッカー等の設置後の管理が必要となる。

・獣種ごとに、電線の高さや間隔を考慮する必要がある。



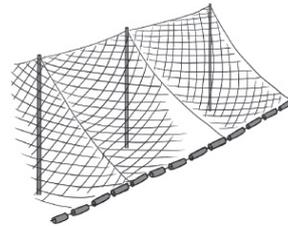
ネット柵

- 安価で設置が容易
- 防除効果がやや劣る

・強度が弱いため、設置後の管理が必要となる。

・ステンレス線が編みこまれていない

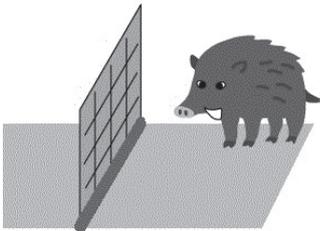
網は、噛み切られることがある。



金網柵

- 強度に優れている
- 防除効果が高い

・地面と接する部分を潜り抜けられないよう、支柱の間を数か所固定するか、竹等を地面に這わせてあてがい、結束して補強すると、防除効果がより高まります。



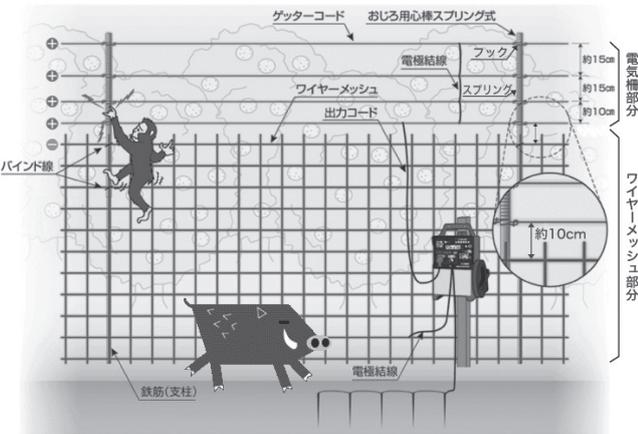
多獣種柵

- 強度、防除効果がともに優れている
- 電気柵部分が、上部のため雑草管理が容易

・シカ、イノシシ、サル等の多獣種に有効。

・猿対策用に電気柵部分の支柱を触っても感電する。

・下草刈りの管理が容易。ワイヤーメッシュ部分なら、雑草が触っても漏電しない。



Point 4 捕獲する

山の10頭より里の1頭を

山奥の鳥獣の捕獲数を上げるより、田畑の作物に依存する個体を捕獲する方が被害は減少します。

日野町有害鳥獣被害対策協議会では、防護柵設置等の各種支援事業等、狩猟免許取得に対する助成も行なっていますので、ぜひご利用ください。柵の防除効果を上げるためにも、捕獲も積極的に取り組みましょう。

獣害対策は、ひとつやっつて終わりということはありません。これらの対策を組み合わせて、集落に合った取り組みをしてください。

